

第45回「議員と語りかい」報告書

(文教厚生常任委員会：No.1)

開催日	令和6年5月17日(金曜日) 18時00分 ~ 19時30分		
開催場所	霧島市役所 議会棟3階 第1・2委員会室・全員協議会室		
団体名	個人参加	参加人員	15人 (男 9人：女 6人)
出席議員	松枝正浩、野村和人、藤田直仁、山口仁美、宮田竜二、前島広紀、有村隆志、塩井川公子		
役割分担	班長(松枝正浩)、副班長(野村和人)、記録係(山口仁美)		
テーマ及び具体的な内容	みんなで助け合う地域づくり		

意見交換での主な話題等	<p>【1班】</p> <ul style="list-style-type: none">・多世代を巻き込んで子育てしていくことについて。・災害の話も出たが、若い人の参画がないので自治会が機能していない。・不登校の子たちや、子どもの自己肯定感。貧困や親の就労の問題。学びの確保の問題。・こども基本法によって、子どもの人権が認められたと考えられている。・子どもの声を吸い上げることは出来ないのか。学校の再編について。・フリースクールの話。子どもの声を聞くことについて。買い物弱者について。 <p>【2班】</p> <ul style="list-style-type: none">・発達障害の子どもが増えている。・わらべ歌講座を活用して、子どもの発達環境改善に努めている。このような取組を広げてほしい。・地域でつながりができた。AZの近くの耕作放棄地を活用し地域に貢献したい。・新規就農の60歳以上の方の取組も支援できないか。
-------------	--

- ・政治のことについて、鹿児島市議選の投票率40%台と低い。
- ・日本で一番投票率の高い霧島市を目指してほしい。
- ・若者がもっと政治に参加できるように。若い人が興味を持てるような取組ができないか。
- ・日本が良い方向に向かうためには、小さい頃から政治について話をする機会を。
- ・議会だよりの表現は、誰にでも分かるようにしてほしい。

- ・霧島市全体で道が不便である。渋滞したらその分経済も止まることになる。
- ・霧島市は温泉など多くの魅力がある。駅が発展していない。和牛日本一のPRはどうだったか。
- ・リアル脱出ゲームなど、若い人が面白いと思える取組ができないか。
- ・今後は予防医療や、若い人の健康づくりに力を入れてはどうか。

【3班】

1. 暮らしの助け合い活動 (co-op)

- ・無資格でもOK 家事支援など。本格的に始めて3年である。
- ・2040年には高齢者人口が、ピークになる。どうやって支えるか。
- ・これからは介護予防に力を入れるべき。一人でも自立した人をどう増やすか。
- ・本市も助け合いを広げていくべきではないか。

2. 子どもの医療費について

- ・子ども医療費の現物給付・・・県は2025年から実行すると言っている。
- ・病児保育については、少子化対策としても、子どものための環境を整えることが必要。病児保育の必要性。
- ・現代社会において不可欠なインフラだが・・・。
- ・病児保育は不採算でほとんどが赤字経営（年100万円）。赤字補填は本体事業からしているところが多い。
- ・自治体負担がまちまちで、金額が不十分なところも多い。
- ・もっと利用しやすい病児保育の仕組みができないか。

3. 生協病院の無料定額診療事業について

- ・生活保護までいかないが、低所得の方を支援する事業である。
- ・全国的にやっているのは、済生会グループ。県内では生協病院系列である。
- ・自営業の方や、8050の方々。短期保険者証発行の必要がある方など。
- ・安心して医療を受けられるために知っていただきたい。

◆は参加者の発言 ◇は議員の発言

4. 消滅可能性自治会と学校の統廃合

- ・一部のエリートを育てる教育。過去、マンモス校には半数の子どもが掛け算を習得していない事実を知った。学校にスケールメリットは必要ないと考えている。
- ・学校（木原小学校）を閉校にしようという話があったが、住所を移動して「孫もどし」活動を行ったことがある。小規模校の役割もあるのではないか。
- ・今こそ、確かな学力を持てる教育をどう作っていくか。
- ・「子どものために」を話し合える環境が必要。学校を大切にすると＝地域を大切にする。

【4班】

- ・自治会が機能していない。
- ・特に男性がコミュニティに入りにくい問題がある。孤独による問題があるようだ。
- ・共働きが当たり前。それによって子ども達が犠牲になっているのではないか。
- ・発達障害にも落ち着かない生活の影響があるのではないか。
- ・医療費の窓口無料化。
- ・金銭面で助けられることや、オーガニック給食により、添加物の摂取を減らすことの大切さ。
- ・霧島市は、都会を見るのではなく、海や山や川などを前面に出した方が良い。

◆みんなで助け合う体制に、地域差がある。

◆コミュニティに入ろうとしない高齢者もいて、地域と高齢者をつなぐ人が必要ではないか。

◇民生委員がその役を担うことになっているが、機能していない地域もあるのかもしれない。

◇自治会、子ども会、PTAなど地域コミュニティに入らない若い人が増えている。

◆仕事が忙しく、コミュニティに入らない若い母親は、孤立して子どもに虐待するケースがある。3歳までは、母親が働かなくてもいい社会になるような支援が必要だ。

意見交換での主な話題等